

今回山形短観における主な判断、事業計画の動き

(2018年3月調査)

1. 業況判断

3月調査では、製造業、非製造業とも改善したため、全産業では14と前回調査から1ポイント改善した。因みに、前回調査では横ばい、水準は13を予測していた。

製造業 . . . 化学は悪化したものの、はん用・生産用・業務用機械が改善したため、全体では15と前回調査から2ポイントの改善となった。前回調査では3ポイントの改善を予測していた。

非製造業 . . . 情報通信などは悪化したものの、卸・小売、運輸・郵便などが改善したため、全体では13と前回調査から1ポイントの改善となった。前回調査では▲2ポイントの悪化を予測していた。

先行き (2018年6月予測)は、製造業、非製造業とも悪化するため、全産業では▲6ポイントの悪化を予測。

2. 需給・在庫・価格判断

国内での製商品・サービス需給 (製造業) 「供給」超幅が縮小。

製商品在庫水準 (製造業) 「過大」超幅が縮小。

販売価格 (全産業) 「上昇」超が解消。

仕入価格 (全産業) 「上昇」超幅が拡大。

3. 売上・収益計画

(1) 売上高

2017年度 (計画)は、製造業は前年度比0.5%、非製造業は同0.9%の増収となり、全産業では同0.6%の増収計画。

前回調査との比較では、製造業 (修正率▲0.2%)、非製造業 (同▲0.5%)とも下方修正されたため、全産業では▲0.3%の下方修正となった。

2018年度 (計画)は、製造業は前年度比1.9%、非製造業は同0.7%の増収となり、全産業では同1.3%の増収計画。

(2) 経常利益

2017 年度（計画）は、製造業は前年度比▲18.9%、非製造業は同▲7.3%の減益となり、全産業では同▲16.0%の減益計画。

前回調査との比較では、非製造業（修正率 1.2%）は上方修正されたものの、製造業（同▲2.4%）は下方修正されたため、全産業では▲1.4%の下方修正となった。

2018 年度（計画）は、製造業は前年度比▲32.1%の減益、非製造業は同 11.8%の増益となり、全産業では同▲20.1%の減益計画。

4. 設備投資計画等

(1) 設備投資額（含む土地投資額）

2017 年度（計画）は、製造業は前年度比 61.2%、非製造業は同 13.3%の増加となり、全産業では同 40.5%の増加計画。

前回調査との比較では、製造業（修正率▲2.8%）、非製造業（同▲2.4%）とも下方修正されたため、全産業では▲2.7%の下方修正となった。

2018 年度（計画）は、製造業は前年度比▲31.9%、非製造業は同▲10.1%の減少となり、全産業では同▲24.3%の減少計画。

(2) 生産・営業用設備判断

生産・営業用設備・・・ 製造業の「不足」超幅は横ばいだったものの、非製造業の「不足」超幅が縮小したため、全産業の「不足」超幅は▲7 と前回調査比縮小。

5. 雇用

雇用人員判断・・・ 非製造業の「不足」超幅は縮小したものの、製造業の「不足」超幅が拡大したため、全産業の「不足」超幅は▲31 と前回調査比拡大。先行き（2018年6月予測）の「不足」超幅は横ばいを予測。

6. 企業金融

資金繰り判断（全産業）・・・・・・ 「楽である」超幅が横ばい。

金融機関の貸出態度判断（全産業）・・・ 「緩い」超幅が縮小。

借入金利水準判断（全産業）・・・・・・ 「低下」超幅が縮小。

以 上